

日臨技支部医学検査学会開催報告(2)

平成 27 年度日臨技北日本支部医学検査学会(第 4 回)報告

学会長 東 恭 悟

平成27年度日臨技北日本支部医学検査学会（第4回）が、札幌コンベンションセンターに於いて一般社団法人北海道臨床衛生検査技師会の担当にて、平成27年10月17日（土）・18日（日）の2日間にわたり開催されました。

当日は天候にも恵まれ爽やかな秋空の下、総勢 1030 名（有料参加者 960 名）の参加で大盛況のうちに終了することができました。



本学会のメインテーマは「良知良能を刺激する」、サブテーマは「いま、臨床検査技師の使命を考えよう！」を掲げました。今日の日本医療は、2025 年問題を含め多くの問題を抱えておりますが、このような状況の中で臨床検査技師として備えている知恵と才能（良知良能）を刺激し、今我々に何が求められているかを再認識する機会となることを期待しておりましたが、東北各県から参加された方々と共に考える機会となったと思います。

学会内容は、一般演題 165 演題、特別講演 2 題で特別講演Ⅰは、札幌医科大学附属病院 神経再生医療科教授の本望 修 先生に、「骨髄幹細胞を用いた脳梗塞、脊髄損傷の再生医療」と題して、特別講演Ⅱは、ドキュメンタリー漫画「義男の空」の作者でありエアードライブ代表取締役の田中 宏明 先生に「逆境が生む創造」と題して講演いただきました。特別企画として、教育講演 8 題、教育セミナー 5 題、R-CPC、生理シンポジウム、感染症カンファレンス、医療安全の北臨技企画、尿沈渣形態の日臨技企画および昨年度から日臨技で取り組んでいる「高校生向け進学支援ガイダンス」も札幌市内の高校生 4 名の参加で開催されました。北日本支部企画「東日本大震災から 4 年、現状と今後」では、

震災から続けてきた DVT 検診、甲状腺健診の概要と継続実施についてと日臨技で今年設立した災害対策委員会から地震だけではなく、火山噴火、大雨や台風の水害にも対応するための連絡網や災害対策マニュアルの作成を進めているお話をいただきました。

また、関係各社の協賛により、ランチョンセミナー 12 企画、機器試薬展示会も盛大に開催することができ、様々な分野の最新トピックスや機器試薬の最新情報が紹介されました。

情報交換会は、札幌地区役員のプロレス企画により、挨拶・乾杯もリング上から行われ宮島会長、伊藤支部長も興奮気味でした。北都プロレス興行は、男子プロ 1 試合、女子プロ 1 試合、男子プロによるタッグマッチと次第に盛り上がり、謎の覆面レスラー（学会長）の乱入でボルテージも一気に最高潮へ！北海道の地酒、ワイン、お土産試食コーナーも設置され東北の皆さんに大好評でした。

学会の締めは宮島会長による日臨技企画「2025 年に向けての“決断”とは、～検体採取の先にあるものは～」で、日臨技の医療政策への提言、2025 年に臨床検査技師が保健・医療・介護の分野で生き残れるためには何が必要か、会長が考える“自らがパラダイムシフトから構築する戦略”について熱く講演されました。



北臨技担当による初の北日本支部学会でしたが、参加された皆さんが交流を深めるとともに沢山の収穫と思い出を持ち帰っていただけたと確信しております。

最後になりますが、会員・賛助会員の皆様のご協力に感謝申し上げますとともに、本学会の企画・運営に協力いただいた関係各位の皆様にご心よりお礼を申し上げます。

